



通路の狭いトイレを、車いすでも使いやすい アール型扉のトイレブースなどへ改修。



改修を行った一般居室のトイレ。左から、男性用車いすトイレ、女性用車いすトイレ、手洗いスペース。美しいデザインの空間は、車いすでも利用しやすい動線を確保している。

1996年の開設以来、介護を必要とする人に、リハビリテーションを通じて在宅への復帰や在宅生活の継続を支援している、リハビリセンターあゆみ。2015年に、利用者の満足度向上や、スタッフのモチベーション向上のために、車いすトイレをはじめとした水まわりの改修工事を行いました。インテリア性が高く、清掃もしやすくなった新しいトイレは、安全・快適なおもてなしのスペース。まさに癒しの空間が実現しています。



全館平屋のバリアフリー施設。外壁・屋根・内装などのリニューアルも順次行っている。

利用の多いトイレの空間だからこそ 色合いにも工夫して、より特別なものに。

リハビリセンターあゆみは、入所は一般居室が60床で、認知症居室が40床。いずれも入所者の75%ほどがトイレを利用しています。女性がおよそ9割と男性より圧倒的に多いことも考慮し、改修ではトイレの個数の見直しもはかりました。また、男性でも自宅で洋式便器に慣れていると考え、入所者用の小便器はなくなりました。

トイレの限られたスペースを有効に活用するために、アール型扉のトイレブースを採用。入所者のプロフィールによって壁や扉の色にも工夫しています。一般居室のトイレはダークブラウンを基調に、ネイビーやレッドでホテルのようなモダンな色合いに。認知症居室のトイレはライトブラウンを基調に、ライムグリーンによる和風の柔らかな色合いを採用し、落ち着いた雰囲気をもたらしています。

2015年の4月から6月までの約90日が工事期間。多くの問題のあった水まわりが、誰もが快適に使える空間に生まれ変わりました。



一般居室の廊下に設けられた手洗器。車いす利用者も奥までアプローチできて、使いやすい。

老人保健施設 リハビリセンターあゆみ トイレ改修工事

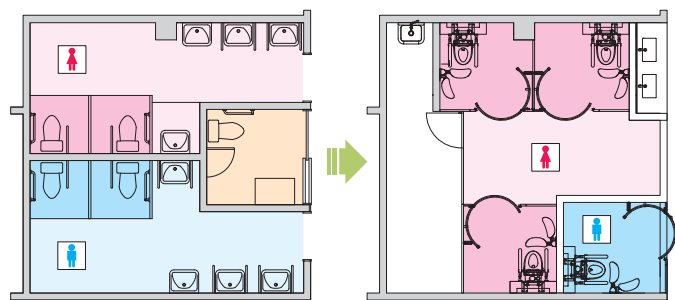
- 改修年月 / 2015年4～6月
- 所在地 / 滋賀県東近江市新宮町558
- 施主 / 社会福祉法人 真寿会
- 設計・施工 / 小山株式会社
- 入所定員 / 100床(ショートステイを含む)
- 通所定員 / 40名



高齢者は車いす利用者も含めて視線が下を向く傾向にあるため、床の青いラインによるサイン表示で、トイレの場所が明確に分かるようにしている。

手洗器は廊下へ移動するなどのレイアウト変更も行い、動線の問題を解決。

改修前は、トイレブースが空いていても、出入口付近で手を洗っている人がいると、動線が塞がってしまっていて利用できないという問題もありました。改修では、アール型扉のトイレブースを採用するとともに、手洗器は廊下へ移動するなどのレイアウト変更によって問題を解消。便器の個数を減らした所もありますが、ゆったりとした空間と動線によって、使いやすさは飛躍的に向上しています。



Before 一般居室の車いすトイレ 平面図
改修前

After 一般居室の車いすトイレ 平面図
改修後



Before

一般居室の車いすトイレ。以前はタイル貼りの床で、目地に詰まった汚れがニオイの元になったり、転倒時にケガにつながるといった問題も解消へと向かった。

After



Before

認知症居室の車いすトイレ。手洗器を廊下レイアウトし、すっきりとした車いす動線も確保した。感染対策を考へて、手洗器は非接触の自動水栓を採用している。

After



Voice 事務部の方からの声

ニオイの解消のため、壁掛けの便器にしました。



リハビリセンターあゆみ
事務部 主任
中川輝夫さん

私が12年前に赴任した時はニオイが気になる施設で、この不快臭を解消するために設計の小山さんに相談。それから消臭カーテンや漆喰クロスなどを採用し、環境の改善に努めました。トイレの改修でも、ニオイが残らないことを考えています。便器は床置きだと隙間に尿が入り込んで拭き取りにくく、ニオイの元になるため、壁掛けタイプを採用しました。

Voice 設計担当の方からの声

アール型扉のブースで面積を有効活用できます。



小山株式会社 医療福祉事業部 営業部 営業推進課
課長
吉井勝幸さん



リハビリセンターあゆみ
チーフプランナー
竹内佐智子さん

アール型扉のブースは、長年使用されている施設様へあゆみ様と見学に行き、経年状況やスタッフの方々の意見も聞くなどして採用を決めました。限られた面積の中で設計でき、導入のメリットは大きかったと思います。

Voice 看護師さんからの声

求めていたブースで、プライバシーも確保しました。



リハビリセンターあゆみ
療養課 看護師 課長
夏原順子さん

以前はトイレブースをカーテンで仕切っていた所もあり、プライバシーの問題がありました。今回の改修では、一般の引戸を付けてしまうと間口が十分に取れないことが大きな問題でしたが、画期的なアール型扉を採用することで解決しました。私たちの求めていたものがあって、とても良かったと思っています。

Voice 作業療法士さんからの声

トイレでの動作も、大きなリハビリになります。



リハビリセンターあゆみ
作業療法士 課長
深津良太さん

老健の施設では、介護保険で療法士がリハビリを行えるのは、原則として週2回の20分に限られます。そこで、直接の接触以外に、元気になってもらう方法を考えています。毎日の排泄行為は、1日に7回トイレへ行くとする、立ち座りの2回で、1日に14回のスクワット動作になり、これをリハビリに生かせると考えています。

トイレブースには転倒対策を考慮して スイングタイプの前方ボードを導入。

トイレブース内には、スイングタイプの前方ボード、背もたれ付きトイレ用手すり、縦のI型手すりを設置。入所者の移乗や座位の安定をサポートし、トイレの転倒リスク軽減に大きく寄与しています。「入所者さん用のトイレにはすべて可動式の前方ボードを備えたので、便座から前に転落してしまうこともなくなりました。以前にはあった危険動作が回避されています。前方ボードを持って移乗することもできますし、利用も介助もラクになっていると感じますね。座った時に、前方ボードを使って前かがみの姿勢にもなれますから、踏ん張りがきくのもいいと思います(看護師 課長・夏原順子さん)」。



認知症居室の車いすトイレのブース内。前方ボードや背もたれ付きトイレ用手すりなどが設置されている。

前方ボードを使った移乗（着座も立ち上がりと同様）



① 排便後に前方ボードを手前へスライドさせる。 ② 入所者さんの最適な位置に合わせてセットする。



③ 入所者さんは腕で押さえながら腰を上げられる。 ④ 後方からの介助によって車いすに移乗できる。

前方ボードで座位安定



排便時は前方ボードで座位の安定をはかる。

前方ボードの
採用によって
移乗の際にも
座位安定にも
入所者さんを
支えられます



介護福祉士さんからの声

前方ボードは、入所者さんに合わせて使えます。



リハビリセンターあゆみ
介護福祉士 主任
西澤美佳さん

前方ボードには多くの働きがあり、入所者さんに合わせた使い方ができますね。前のめりの姿勢になった時の転落防止になります。車いすから移乗する際のサポートにもなりますし、しっかりと肘で押さえて立ち上がることもできますね。自分の体に近い支えのほうに安心だという人にも、前方ボードを使っています。

より良いケアサービスを行うために、スタッフが働く環境にも配慮しています。



スタッフや来客用の男性用&女性用トイレも、アール型扉のブースに改修。便器はすべて壁掛けタイプを採用している。



スタッフ用の食堂も整備され、気分転換の場にもなっている。